資料１

住民参画型学習事業の成果の確認と
今後の展開について

～答申骨子案～

令和５年８月

仙台市公民館運営審議会

目　次

答申（骨子案）：住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について

はじめに・・P○

第１章　各事業のこれまでの成果と課題
１．若者社会参画型学習推進事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(1)第１期（平成 22 年度～24 年度）の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(2)第２期（平成 25 年度～29 年度）の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(3)第３期（平成 30 年度～）の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(4)まとめ
２．住民参画・問題解決型学習推進事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(1)第１期（平成 23 年度～25 年度）の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(2)第２期（平成 26 年度～29 年度）の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(3)第３期（平成 30 年度～）の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(4)まとめ
３．子ども参画型社会創造支援事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(1)第１期（平成 23 年度～25 年度）の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(2)第２期（平成 26 年度～29 年度）の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(3)第３期（平成 30 年度～）の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(4)まとめ

第２章　各事業の現状に関する評価
１．若者社会参画型学習推進事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(1)各事業の概要と審議会での意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
①「若者によるまちづくり実践塾」（青葉区中央市民センター）・・・・・・・・・・P○
②「仙白園プロジェクト・人」（若林区中央市民センター）・・・・・・・・・・・・P○
③「まいぷろ（Miyagino Young PROgram）」（宮城野区中央市民センター）・・・P○
(2)当該事業に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
２．住民参画・問題解決型学習推進事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(1)各事業の概要と審議会での意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
①「中野ふるさと学校」（高砂市民センター・宮城野区中央市民センター）・・・P○
②「かつら情報局」（桂市民センター・泉区中央市民センター）・・・・・・・・・P○
③「かむりの里いきいきプロジェクト）」
（根白石市民センター・泉区中央市民センター）・・・P○
(2)当該事業に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○

3．子ども参画型社会創造支援事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
(1)各事業の概要と審議会での意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
①「ぼくらの長町黄援隊！」（太白区中央市民センター）・・・・・・・・・・・・P○
②「中山キッズ」（中山市民センター・青葉区中央市民センター）・・・・・・・P○
(2)当該事業に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○

第３章　今後の展開について
1．「住民参画型の学び」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
2．「世代間交流」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
3．「地域資源」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
4．「情報（成果物）発信」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
5．「持続可能性・つなぐ役割」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○
6．「アフター・コロナ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P○

はじめに

○○○

各事業片面1ページ分
本章では，これまでの審議会資料をもとに，各事業の概要と令和3年度までの成果と課題について記述する。

第１章　各事業のこれまでの成果と課題

（リード文）○○○

実感できるよう、主体的に学習ニーズや地域の資源・現代的な課題等に関わる学習プログラムを設定し様々な取組を行った。学びのプロセスを大切にする中で、地域の課題等の解決に取り組もうとする意識を高め、地域・社会の構成員として、主体的・意欲的に活動できるような人材が育成された。

（4）まとめ

○○○

との交流）を見据えた取組が必要である。

（3）第3期（平成30年度～）の成果と課題

第3期は、地区市民センターを拠点として自主サークル化して活動を継続する団体や、新たに地域課題を発見し、解決に向けて取り組む団体もあり、これまで培った事業参画者の学びの成果が地域で活かされている。市民センター職員が、地域課題解決のためのプロセスや目的に迫るアプローチの手法を事業参加者である地域住民とともに検討しながら事業を進めることで、住民が主体的に考えながら活動し、自己有用感や課題解決に取り組む意欲の向上につながっている。取組により得られた成果・手法などを、成果報告会などで共有することができた。一方、回数を重ねるにつれ、地域交流の場として地域密着型の事業となっているが、メンバーの高齢化が課題となっている事業もあり、新規メンバーの加入促進が不可欠である。

（4）まとめ

○○○

ため、連絡、交通手段を確保することが難しかった。

（2）第2期（平成26年度～29年度）の成果と課題

各区中央市民センターを中心に本事業を実施してきたことを踏まえ、取り組みを拡大するため事業ノウハウを地区市民センターに伝えるとともに、「住民参画・問題解決型学習推進事業」「若者社会参画型学習推進事業」との連携も視野に入れて実施。事業に参加した児童生徒は、活動交流会や成果報告会などを通じて互いの活動について知り、これまでの活動を振り返ることで、達成感や充実感を味わい今後の活動の意欲が高まった。また，子どもたちが自分たちにできることを考え、地域社会の協力を得ながら活動することで、自らが地域で役立つ存在であることへの「気づき」が生まれた。さらに，市民センターや各学校へのリーフレット配布により、事業への関心を高めることができた。

（3）第3期（平成30年度～）の成果と課題

子どもたちの「社会に参画していく力」、「社会に発信していく力」を更に育むとともに、地域・家庭・学校や関係機関等と連携し、子どもたちが地域の方々と協働して活動できる環境をつくることをねらいとして実施。

事業に参加した子どもたちは、自分たちにできることを考え、地域社会の協力も得ながら活動することで、地域への関心を高めるとともに、「地域の一員」としての自覚を持つことができた。また，子どもたちは、取組を通して地域住民と交流するなかで、達成感や充実感を味わい、今後の活動意欲が高まった。

一方，多様な人々や団体とのつながりを作っていくことが求められている。一定の学校や地域に留まらず、さらに多くの子どもたちと地域を、市民センターが核となって巻き込んでいくことが必要。今後は、市民センターが相互に連携し、他の地域や事業の関係者同士が交流できる場を提供することで、子どもたちの活動をさらに飛躍させることを期待。さらに，事業で得た成果を他の地域や事業にも広げ生かしていくことで、市民活動を支えるネットワークの拠点として地域づくりやまちの活性化に貢献することができ、持続可能な取り組みとすることができる。

（4）まとめ

○○○

説明または視察の対象となった各事業につき片面1ページ分
本章では、今会期中における事業説明、事業視察を踏まえて行った各事業の評価と考察について記述する。
（事業説明）各事業の概要→公運審での意見　（事業視察）各事業の概要→視察の概要→公運審での意見

第２章　各事業の現状に関する評価

（リード文）○○○

や地域清掃、サイダー販売等を行った。

【審議会での意見】

- 地域貢献活動がさまざま行われているということで、地域の人から感謝をされるということ若者にとって自己有用感の向上につながり、それが活動のモチベーションにつながっていた。
- チャボ！、ジュニア、若者ということでうまく市民センターに人がずっと居つくというか流れてゆくよさがあるのではないか、幅広い参加者があってとてもよい。被災地域というところもあり、その思いの強さがあらわれているのではないか。
- 子ども事業、そしてジュニアリーダーも入って、さらには若者事業にもつながるという流れが地域の中で、この市民センター事業の中であって、その中で地元愛、地域を大切にする思いが育まれているというのがよかった。
- 白菜のほかにもっと、伝統野菜についてさらに深めることもできるのではないか。現実的には難しいかもしれないが、実際にそれを何らかの形で販売とか、そういうことができるのであれば、さらに若者たちも本気になれる可能性があるんじゃないか。そこはハードルが高いかもしれないが、何らかの実行委員会形式とかということで可能性がある。
- 若者がやっていることに対して周りの大人たちが実際に褒める、評価するということが、これからの若者事業をやっている人たちの意欲向上にもつながる。
- 参加者の確保が話題になった。大学生はとても忙しいし、経済的にアルバイトが必要な子もいる。そういう若者を活用していく、来てもらうということを考えていかなければいけない。一つの提案として、大学生の参加を大学の単位の一環として認定してもらうことができれば。市民センターの地域活動とか地元の地域を考えるとかというのを大学の単位とうまくコラボしていけると、忙しい大学生がこちらに向くのではないか。とてもすべての活動が素晴らしいのだが、今の大学生はわりと具体的な例を示さないとなかなか参加しにくいのではないか。例えばこういう活動をします、こういう活動をするのでこうしたいですという具体的な例があれば参加するのだが、やりたいことみんなでやってみませんかとか、ふわっとするとなかなか参加がしにくいので、それらに気をつけながらアピールをすればよいのではないか。

③「まいぷろ（Miyagino Young PROgram）」（宮城野区中央市民センター）

【事業概要】

宮城野区の「沿岸部」や「仙台駅東エリア」等、区内にある地域の魅力を取材し、web記事または動画の制作・発表を通じて、様々な人々と協働し、身近な地域をより良くすることへの関心を高めると共に、社会・地域の一員として、自発的・主体的に行動できる人

づくりを行うことをねらいとして実施している。令和４年度は、高校生 14 名が参加した。

【視察概要】

- 実施日時　令和４年 10 月 22 日（土）14：00～16：00
- 実施場所　仙台市宮城野区中央市民センター
- 事業参加者数 11 名（うち一般参加者 0 名、企画員 11 名）
- 視察委員　市瀬智紀委員、幾世橋広子委員、佐藤正実委員

【審議会での意見】

- 子ども達の目指したコミュニケーション能力は身についていた。
- 地域の人達や団体と協働して活動というところがねらいであり、市民活動サポートセンターや TOHOKU360、宮城野区内のたくさんのお店や施設とも協働ができていた。
- たくさんのことを調べて、たくさんのことを考えて、記事を作成中だが、リーフレットにするだけではもったいない。紙面に入らないのではということで、冊子にしてみるのもよい。今回は Web 記事にして発信をする予定であり、それもよい。
- 事業として継続していくと、子ども達は入れ替わっても何年か分の記事はたまっていって、例えば歴史ですとか子育てなんてカテゴライズされた、宮城野区のカテゴリー別の記事集みたいなのができていくので、継続していくのもよいのではないかと。その中で、もしかしたら今回なかった新しいカテゴライズができていくとよい。
- 市民センターの持っている情報網とか人脈をとても有効に活用した事業だった。サポセンとか TOHOKU360 というのは学校だけではつながることができない団体なので、そういう意味では市民センターが入ることの意味がすごくある。
- 大人が行くとなかなかにこやかに対応してもらえない場所も、高校生が行くとすごくていねいに対応してもらったり、温かく受け入れてもらえた。高校生が地元に受け入れてもらうことで、今度は自分達が頼れる存在になっていける。自分達がもらった安心感を人に与えていけるような子達になるとよい。
- 実は地域に若者とつながりたい、子どもとつながりたいって思っている人達がいる。そういう人達ともうまく連携をとっていけたらよい。

（２）当該事業に対する評価

「若者によるまちづくり実践塾」では、○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

2．住民参画・問題解決型学習推進事業について

（1）各事業の概要と審議会での意見

①「中野ふるさと学校」（高砂市民センター・宮城野区中央市民センター）

【事業概要】

・　本事業は、平成26年に高砂市民センターと宮城野区中央市民センターの共催事業（住民参画・問題解決型学習推進事業）として開始した。当初は被災した地域住民の心の復興を中心テーマに据え、地域住民の交流による地域の活性化を目指した取り組みを進めてきた。日和山登山やダーツ交流会などは、継続して実施されており、地域住民に広く認知されるようになった。

・　市民企画員が学びを通して活動していく中で、様々な分野への興味が広がり、企画員の意欲が高まっている。近年、干潟の環境保全に企画員の関心が集まっており、令和3年度は日和山周辺の清掃活動の実施につながった。

・　これまでは、震災を乗り越えるために、地域住民の心の復興を目指して事業を展開してきた。震災から10年を経て、講座のテーマを「震災からの復興」から「未来につなげる地域交流」に移行しながら、創意工夫を凝らした事業運営をする必要がある。

・　令和4年度で、8年目を迎える。蒲生干潟・日和山周辺の環境保全活動を企画し、活動への参加者を公募することで交流を深めている。

【審議会での意見】

・　区中央市民センターの共催を離れて、地区館およびサークルの皆さんの自走型となっている。

・　登頂証明書がとてもいい。清掃活動は、今話題のＳＤＧｓにもつながっており、よい視点である。この活動以外にも、地域のためにいろんなことをやっており、地道な活動が実を結んだ結果、表彰やメディアに取り上げられるような活動になっている。

・　住民の方が自ら発信されている点、地域がいろんな思いを次世代に繋げるという点がすごくいい。復興からのスタート、その思いが、地域のつながりをなくさない、未来につながる交流ができている。

・　市民センターが地域の思いを具体化している。単純に引っ張っていくということではなくて支えていく、地域の皆さんの思いを言葉や形にしていく市民センターの働きがすごくよかった。

・　ゴミ拾いについて、定期的な開催ができればよい。深沼で定期的に活動を行っている。その中で、近くの石碑を見つけたりするなど、また新たな視点が出てくる可能性もある。

・　もし可能であれば、SNSの活用というのが今後考えられる。ネットワークが拡大でき

ると考える。講師を外部から呼ぶよりも、その地域の方々が、お互いに講師になって教えあうということもよいのではないか。

②「かつら情報局」（桂市民センター・泉区中央市民センター）

【事業概要】

・　桂市民センターでは、平成30年度から、企画委員会（令和3年度は10人）での話し合いと様々な講座の実施を通して、地域における人々や団体のつながりの促進に取り組んでいる。

・　令和元年度は、小学生親子・中学生を対象にプログラミング講座を開催。地域の諸団体が企画運営を行い、地域在住の大学生、青年会議所メンバー、中学校教諭がサポート。

・　令和2年度は、平成16年頃に作られた「桂音頭」のアーカイブ化、さらには、 令和版桂音頭が制作されDVD化された。

・　令和3年度は、桂小学校運動会で子どもらによる「かつら音頭の踊り披露」など、地域住民の絆づくりの一助に。また、町内会活動でのICT活用に向けて活動。情報発信システム「結ネット」を利用した町内会の「桂デジタルコミュニティ」の試行。また、高齢者を対象に「ゼロから始めるLINE講座」を開催。企画委員も講師の補助を務めた。

・　泉区中央市民センターでは、桂市民センター事業の支援、事業成果の情報発信を行うとともに、区内市民センター事業担当者に対し市民協働による地域づくりについて理解を深めるための説明会を開催している。

【審議会での意見】

・　今後も可能性が広がる事業。最終的には、結ネットを災害時の安否確認のような仕組みとしても使えるのではという意見もあった。また、親子で参加するところが地域の顔が見える関係づくりとしてすごくいい。

・　一方、高齢の方が単身でも参加できるような仕組みづくりも必要である。

・　地域でちょっと気になる、やってみたい、できたらいいなを、見事に具現化している。

・　ドローンやゲームなど、子どもだけではなく、親の参加によって、住民の皆さんの心理的ハードルを下げることが持続可能な取り組みになっていくと期待される。

・　LINEによるトラブルが起きてくる可能性がある。ネットマナーについての講座の実施や、希望者ができるだけ受講できるよう、回数や定員を検討していく必要がある。

・　顔を合わせて回していた回覧板の時代から、デジタルで回覧板が回っていくという世の流れに驚いた。デジタル化することで、今まで町内会を敬遠してきた世代も参加しやすくなるのではないか。現役世代、元気な世代の人達が、地域をつくっていけたらいい。

・　特定の今一生懸命やられている人がいなくなったときに、これがどうなっていくのかという課題もある。また、情報の管理をどうしていくのか検討する必要がある。

・　今の小学生はGIGAスクール構想でいろいろやっているが、その上の保護者世代の人

達はプログラミングなどを学習していないので、世代によって内容を変えていく必要性があるのではないか。

③「かむりの里いきいきプロジェクト」（根白石市民センター・泉区中央市民センター）

【事業概要】

・　泉西部地区は、歴史と伝統、自然や食文化等あらゆる魅力に恵まれた地域であるが、都市化と高齢化の進行により、それらを次の世代に残し伝えることが困難になりつつある。また、地域を牽引してきた人々の高齢化も顕著であり、若い世代の活躍と継承、地域の世代交代が期待されている。

・　根白石市民センターでは、若い世代の企画員を選定し、地域の現状や未来について若い感性で話し合う場を提供するとともに、無理なく参加でき、地域内で活躍できるような事業を企画立案している。

・　泉区中央市民センターでは、根白石市民センターと連携し、地域特性に応じた市民協働による地域づくりを推進している。

・　平成29年度から開始。令和4年度の企画員は地域住民16人が登録し12人前後で運営、うち新規参加者4人。地域課題やニーズ共有のための話し合い、地域活性化を目指した事業の企画会議、企画会議で決定した事業の実施に向けた会議を行っている。

【視察概要】

・　実施日時　　令和4年9月18日（日）10：00～12：30
・　実施場所　　見松寺（泉区西田中字朴ノ木山4）
・　事業参加者数　43名（うち一般参加者35名、企画員8名）
・　視察委員　　伊藤美由紀委員、大内幸子委員、牧靖子委員

【審議会での意見】

・　一番初めの目的の共有のときに、住職の方が、「この機会を通して家族での会話が弾んでほしい」と話をした。それがとても良かった。いきなり「地域づくりをしよう」では、楽しくない。その初めの言葉で、参加した大人の方々に対して、「これは遊び。みんなで楽しんでいこう」という空気がつくれたのが一番よかった。

・　竹細工は、ナタで竹を割る。自分の子どもがナタで割ろうとしているときに、「じゃ俺やってやるか」とお父さんが割ったりすると、「お父さんすごい」と一気に英雄になる。それが家族関係をしっかりつくっていく。

・　家族関係をつくることがメインではなく、地域交流をつくりたい。それを今まで3年間積み重ねているこの会議で企画員が共有しているので、端端で、友達とやったら楽しいよね、地域でやったら楽しいよね、と声がけがある。一番初めのインドロダクションは、スモールステップだが、徐々にそのステップが上がっていく。その過程がすごくよ

かった。

・　市民センターがニュートラルになって、途中途中で方向修正をしていく。企画員の中にも市民センターが入っているので、目的がずれないで進んでいる。

・　区中央から予算面のサポートなどがあり、会議や行事が充実している。

・　企画員は、活動していくことで充実感が上がっていて、10 月 22 日には、「コメフェス」という根白石のお米のフェスティバルを自分達で実施した。それが大盛況だった。

・　大人事業としては今年度で終わりになるが、たぶん来年は自分達でまた進んでいく。市民センターも、そこからもサポートはしていくので、どんどん地域づくりが広がっていく。とてもいい流れのベストケースだと思われる。

・　一方課題として、このまま継続すると「自分達の地域づくり」という目的から、「来る人達のアテンドや来場者を楽しませること」という目的に意識がシフトしてしまうのではないかということが挙げられる。若い企画員の方々が、月に何度も話合いを重ねることで、目的意識の共有がなされ、課題は解決していくのではないか。市民センターの方向修正も入りながら、これからもさらに発展していく事業であってほしい。

（2）当該事業に対する評価

「中野ふるさと学校」では、○○○

ら、子どもたちの目線や視野がどんどん広がっていく。

- 地域の強みを生かしたプロスポーツとの連携が良い。また、地域企業との連携も非常に良い。初めて地域のために何かをする入り口として非常に身近でわかりやすい。
- 参加者を増やしていくためには、参加者を集める段階から各小学校と連携してより関心を持ってもらうことが必要。事業の周知・広報の仕方を工夫できるとよい。
- こどもたちにとって　自分が住む地域にスキのものができるということは、とても大切だと思う。地域の良さ、仙台の良さといったものに気づいていくという今回のようなプロジェクトが、複数たくさんできるとよい。
- プロスポーツという地域の魅力の中でも比較的新しいものをテーマにしたが、加えてその地域にしかない歴史的なもの等をかけ合わせていけるとよい。

②「中山キッズ」（中山市民センター・青葉区中央市民センター）

【事業概要】

- 令和４年度から始まった「中山キッズ」は仙台青陵中等学校の中学生・高校生が「小学生が地域での活動に目を向け、将来主体的に地位で活躍できる人材に育つこと」を目指して行っている事業である。令和４年度は「小学生向け講座キンボールで遊ぼう、ペーパーアートを楽しもう」を企画運営したり、青葉区民まつりのブースの運営にも携わったりした。

【視察概要】

- 実施日時　令和４年10月９日（日）10：00～11：30
- 実施場所　中山市民センター
- 事業参加者数　15名（うち一般参加者９名、企画員６名）
- 視察委員　相澤雅子委員、熊谷敬子委員、菅原正和委員、鈴木京子委員、
  松田道雄委員、三浦和美委員

【審議会での意見】

- 少子高齢化社会の中で次世代の人材育成という目的はとても良い。また、市民センターと近くの学校との連携がとれていることもよい。活動をしている学校が中高一貫教育を行っているので、６年を通してゆとりのある進め方をしている。６年間同じことを共有できることが青陵中等教育学校としてのメリットであろう。
- イベントに参加している小さい子どもたちが企画員の姿を見て、あこがれを抱いたり青陵中への興味を持ったりする様子が見られた。人と人がいろいろ関わることで、学びが互いに深まっていったというのがすごくよかった。
- イベントを失敗なくきちんと終わるというのは計画性やいろいろな配慮が必要である。

また、臨機応変に動くことも要求される。そういったことを高校生がきちんとできている。市民センターのサポートとしていろいろな配慮をしていることで連携がうまくいっていると感じた。

・　今回は中等教育学校の生徒が中心であったが、地域の他の学校とやってみることができたらよい。ただ、地域の普通の中学校だと時間が３年間なので忙しい中でどこまでできるかという問題がある。

・　今回は親子対象でやったが、対象を高齢の方々まで広げられると、地域との関りが広がってよいのではないか。低学年向けの手作業であれば高齢者も子どもと一緒に参加したいと思う人もいるだろう。市民センターからそういった声掛けがあってもよい。また、市民センターまつりなどでもやれると活動の幅が広がると思う。

（２）当該事業に対する評価

「ぼくらの長町黄援隊！」では、○○○

片面2ページ分
本章では，これまでの議論をふまえ，既存事業の今後の事業推進のための提言について記述する。

第３章　今後の展開について

（リード文）○○○

1．「住民参画型の学び」

○○○

2．「世代間交流」

○○○

3．「地域資源」

○○○

4.「情報（成果物）発信」

○○○

5．「持続可能性・つなぐ役割」

○○○

6.「アフター・コロナ」

○○○

おわりに

○○○